



～ 新年を迎えて ～

明けましておめでとうございます。

小笠原の農業には、遠隔離島であることに伴う流通・販路面の問題や農地に関する諸問題、自然環境保全との両立など様々な課題がありますが、こうした状況においても、農業者の皆様が、経営努力や創意工夫を行うことで、小笠原の農業振興と地域の活性化に貢献されていることに改めて敬意を表します。

これまで農業センターでは、観光地としての小笠原も意識しつつ、高い収益を実現できる農業を目指して特産熱帯果樹の安定生産や周年販売に向けた試験研究に取り組んできました。また、世界自然遺産の登録を機に、貴重な自然と独自の生態系の保全に配慮した農業振興が一層求められるようになったことから、環境に配慮したアフリカマイマイの防除方法の検討や小笠原固有植物の生産技術開発、オガサワラオオコウモリの農業被害対策等も行ってきました。

26年度から新たな研究課題を設定して試験研究に取り組むこととなりますが、昨年3月に実施した生産者の皆様に対するアンケート調査等も踏まえ、より一層農業振興に資する試験研究を行っていきたいと考えております。具体的には、農業センターの研究資

源をパッションフルーツやマンゴー、菊池シモン等の主力品目に傾注し、熱帯果樹の複合経営の実現に向けた試験研究に取り組んでいきます。また、遺産登録地に相応しい試験研究を推進するため、新たな侵入病害虫に対する実態調査や侵入防止対策等の研究も行っていきます。

さらに、今月から年度末にかけて、遺産登録効果により増加した観光需要等に対応するため、小曲エリアの展示温室を解体撤去して跡地に小笠原自生植物の母樹園を整備するとともに、野菜育苗温室等を改修して新たに展示コーナー等を設置する予定です。

母島の営農研修所においては、昨年10月から農業経営力の強化を目指し、果樹に関する専門技術研修を実施しています。

このような試験研究や技術指導は農業生産者の皆様のご理解とご協力の上に成り立っており、村の農業振興や生産性の向上に寄与してこそ意義のあるものとなります。

本年も、皆様のご意見やご要望をお聞きしながら精力的な取組を行い、成果の還元に努めていきたいと思っております。引き続き、皆様のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

<産業課長 川口>

～ コーヒーの栽培試験を実施中です ～

小笠原でのコーヒー栽培は、明治12年に日本で初めて、インドネシアから父島に導入されたことから始まりました。太平洋戦争により一時は途絶えてしまいましたが、現在では、小笠原ならではの作物のひとつとして、栽培が行われています。

農業センターでは、コーヒーの高収量・高品質な栽培を実現するための試験に取り組んでいます。ここでは、24年度の成果と、農業センターで確認されたオガサワラオオコウモリの被害についてご紹介します。

1. 幼木の施肥量について

24年度は、苗木の定植から間もない時期の適正な施肥量を明らかにするために、施肥試験を行いました。4年生の幼木を露地に定植後、窒素の年間施用量をそれぞれ3kg/10a、6kg/10a、12kg/10aとして1年間栽培し、生長率を調査しました。施肥方法は、尿素を用いて、表層施用（地面上に粒状のまま散布）または葉面散布（1%溶液として散布）としました。

結果として、樹高の生長率は、施肥量では12kg/10aまたは6kg/10aとした区で、施肥方法では、葉面散布区でより高くなる傾向となりました（図1、2）。

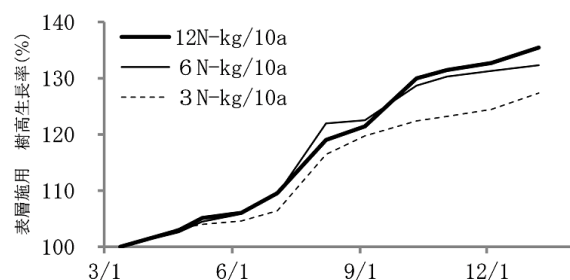


図1 窒素施用量と樹高生長率（表層施用）

2. オガサワラオオコウモリによる被害

コーヒーは9月から翌年3月頃が収穫期となりますが、完熟したコーヒーの果皮はオガサワラオオコウモリが好んで食します。農業センターの圃場では、定植2年目から食害が確認されました（写真左）。また、果実の食害だけでなく、オオコウモリがぶら下がることによる枝折れも生じています（写真右）。枝折れは収量の低下や樹形の乱れにつながります。収穫期間中、オオコウモリは繰り返し飛来するので、圃場の周囲を害獣対策用のプラスチック製ネットで覆うなどの対策が必要となります。

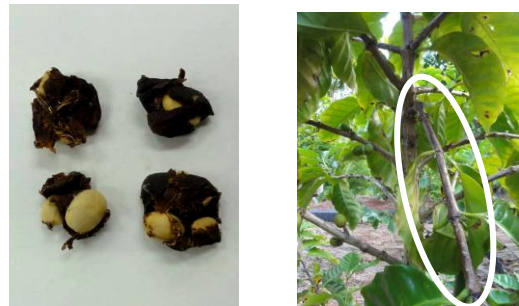


写真 左：果実のペレット（食べかす）

右：オオコウモリによる枝折れ（円内）

3. 今後の試験について

コーヒーは強い日差しにより葉焼けすると言われていています。今後は、定植2年目以降の収量と日射量との関係を調査し、遮光の必要性や程度について検討してまいります。

<窪田>

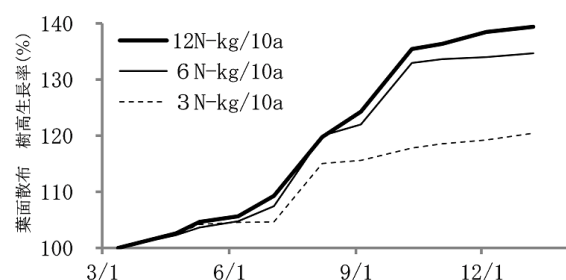


図2 窒素施用量と樹高生長率（葉面散布）

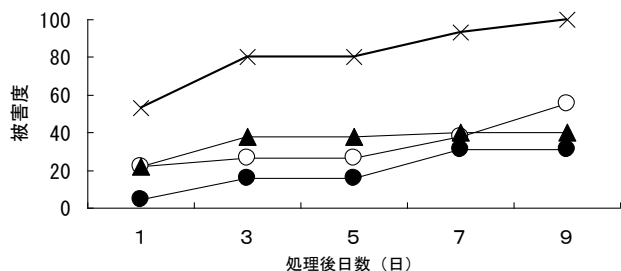
～ ウスカワマイマイに対する新規薬剤の適用拡大試験 ～

10年ほど前から、父島・母島（特に母島）でウスカワマイマイによる農業被害の報告が増加しています。本種は1990年代半ば頃までは、高密度な分布地域は父島の市街地の一部地域に限られていたようですが、2000年代から母島でも多発し始めました。

本種の防除もアフリカマイマイと同様に、メタアルデヒド粒剤の散布が中心となりますが、近年、メタアルデヒドは安全面の強化から使用方法の規制・変更が進んでおり、従来のものよりもメタアルデヒド含有量が低濃度な薬剤の開発も進んでいます。このことは、世界自然遺産に認定されて天然記念物の固有陸産貝類が分布する小笠原諸島においても望ましいことといえます。

今回、小笠原で使用される従来濃（6%）の半分（3%）のメタアルデヒド濃度の新規薬剤のウスカワマイマイに対する適用拡大試験を行いました（作物はハクサイ）。

新規薬剤は、1.0または3.0g/m²相当量を散布し、対照薬剤はメタアルデヒド濃度が3.5%の薬剤を1.0g/m²相当量散布しました



○—メタアルデヒド3.0%粒剤 (1.0g/m²) ●—メタアルデヒド3.0%粒剤 (3.0g/m²)
▲—メタアルデヒド3.5%粒剤 (1.0g/m²) ×—無処理

図1 各薬剤処理後の被害度の変化

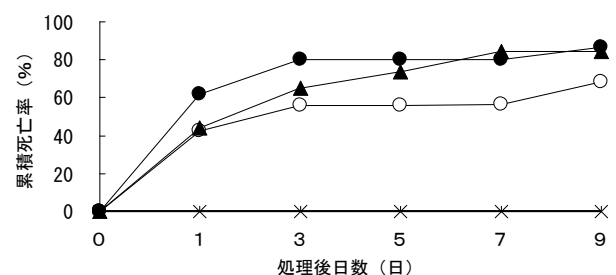
被害度は、作物の食害程度を4段階に分けて各段階の被害株が何株あるかを元に算出する値で、最小値は0、最大値は100。

（メーカー指定の薬剤）。また、薬剤を散布しない無処理区も設けました。作物がどの程度の被害を受けたかを示す被害度の推移（図1）は、無処理区は処理後1日目から高い値を示し、日が経つほど上昇し、試験終了時には最大値の100近くになりました（ほぼ全ての株が食べ尽くされたということ）。一方、薬剤散布区では新規薬剤は対照薬剤よりも低い値で推移しましたが、試験終了時には1.0g/m²散布区では対照薬剤よりも高い値になったものの、3.0g/m²散布区では対照薬剤よりも低いままでした。

薬剤処理による死亡率の推移（図2）は、試験終了時には新規薬剤は、1.0g/m²散布区では60%程度に留まったものの、3.0g/m²散布区では対照薬剤（85%）とほぼ同等～上回る値（87%）となりました。

以上の結果から、新規薬剤は3.0g/m²散布で従来薬剤と同等の効果があり、現在適用拡大の手続きを進めています。今後も早期の適用拡大を目指し、試験を継続していきます。

<大林>



○—メタアルデヒド3.0%粒剤 (1.0g/m²) ●—メタアルデヒド3.0%粒剤 (3.0g/m²)
▲—メタアルデヒド3.5%粒剤 (1.0g/m²) ×—無処理

図2 各薬剤処理後のウスカワマイマイ累積死亡率

情報:メタアルデヒド粒剤「ナメクレーン」の使用法の変更について

現在、アフリカマイマイなどの防除に使用されている「ナメクレーン」は、2013年9月25日付で使用方法が以下のように変更になりましたので、注意してください。

旧：「ナメクジ類或はカタツムリ類の加害する場所にまばらに配置する。」を、

新：「本剤を数粒ずつまとめて、1m²あたり4～5ヶ所の割合で適宜配置する。」に変更。

なお、製品ラベルに記載の使用法が変更前の製品がお手元にある場合は、有効期限内であれば（有効期限を過ぎた製品は使えません）。旧内容の使用法で使用できます。

～ マンゴー・レモンの専門研修を開催中！ ～

営農研修所では今年度後半からマンゴー・レモンを中心とした果樹専門研修を毎月1回開催しています。12月6日に開催した研修会では、新規導入や生産拡大を検討している農家を中心に約20名の参加があり、農業センターからは講師として2名が参加しました。マンゴーについては、研修所圃場で栽培生理と植栽計画について説明し、農家圃場では、園主から経営栽培の実際について話を



写真1 施設マンゴーの植栽について説明



写真2 レモン苗木の定植実演

聞きました。また、レモンについては、露地栽培における防風対策のポイント、苗木の定植、成木の整枝・剪定を実演し、参加者で実習を行いました。参加者からは広島・愛媛でのレモン先進地視察の報告もあるなど、充実した研修になり、マンゴーもレモンも大変参考になったとの声が多く聞かれました。今後も農家との交流を通じた情報の受発信を行ってまいります。 <池田>

～ 農業者セミナー 開講のお知らせ ～

農業センターでは、意欲的な農業者を対象に「農業者セミナー」を開講しています。今年度は残り2回を開講予定です。

《1月》「農産加工と関係法令」

父島：1月16日（木） 母島：17日（金）

講師：東京都農業振興事務所 野地担当係長

《2月》「食品加工」

父島：2月21日（金） 母島：22日（土）

講師：東京都食品技術センター 三枝所長

開催時間は、村民便りで告知します。受講希望の方は、農業センターまで、電話もしくはFAXでお申し込み下さい。 <窪田>

～ 研究成果報告会 開催のお知らせ ～

下記の日程で平成25年度研究成果報告会を行います。

母島：2月10日（月）16:30より

営農研修所本館にて

父島：2月12日（水）15:00より

農協直売所2Fにて

当日は、パッションフルーツ、菊池レモン、ウスカワマイマイ等に関する研究成果を発表する予定です。皆様、ぜひご参加下さい。なお、事前の申し込みは必要ありません。

<池田>

農業センターニュースは小笠原亜熱帯農業センターのホームページにも掲載しております。

検索

小笠原支庁 → 小笠原亜熱帯農業センター → 農業センターニュース